

日々、失敗・・・そして少しの成功

大阪教育サークルはやし 宮本哲

「初めての担任」

初めての担任は、6年生だった。五クラス中、四クラスは、教師、子ども共々持ち上がり、私が受け持つことになったクラスだけが、担任交代。当然、理由がある。

私は、教師になる前、企業で営業職をしていた。その時、「ピンチの中にチャンスあり。」とよく上司に言われていた。実際、クレームをうまく解消したお客様には、ずいぶん可愛がっていただいた経験がある。今回もそんなふうを考えていたので、一クラスだけが担任交代の理由もそんなに気にしていなかった。逆に持ち上がった他の先生の方が心配して下さって、たくさん声をかけていただいた。

私が、最も重視したのが子どもたちとの人間関係である。営業職でもそうであったが、人間関係が構築されていると、多少の

失敗も多めに見てくれていた。(これは、若いときだけである。経験を積んで失敗を繰り返せば信用を失う。)

休み時間はいつも子どもたちと一緒にいた。ドッジボール、鬼ごっこ、ケイドロ、バスケットボール、キックベースボール、トランプ、ウノなど、子どもたちと一緒に遊んだ。

放課後も子どもたちは学校によく遊びに来た。休み時間は危険なので、できない野球も放課後は教師が付いていれば、やっても良いルールだったので、野球も一緒にやった。その当時(二十年前くらい前)は、社会体育と言えば、野球を多く習っている子が多かった。そして、どちらかと言えば野球を習っている子は、やんちゃな子が多かった。その子たちとは遊びの中で人間関係を作り、信頼を深めていった。だから、多少(ずいぶん)授業が下手でも子どもたち

は、慕ってくれていた。今考えるとひどい授業をしていた。(現在もまだまだであるが)

当時は、そんな私でも保護者からのクレームはなかった。子どもが笑顔で学校から帰ってきて、学校でのことを楽しそうに話しているの、それで良しとしてくれたのだと思う。(今の時代は難しいかもしれないが)

しかし、教師と子どもの関係が結ばれていただけであった。その時、子どもたち同士の結びつきをほとんど意識していなかった。子どもたちは、自分たちで自然に友達を作り、仲良くなっていくものであると思っていた。実際、私の小学校の頃を振り返ってみるとそうだったからである。

子どもたちは、数人のグループを作り、それぞれが仲良く過ごしていた。しかし、グループ同士の関係は希薄であった。だから、子どもたちは、そのグループから外されないように気を遣いながら生活していた。特に高学年の女子は、グループ意識が強く、他のグループと繋がるうとしなかった。こういう子どもの見方は、当時の私には、な

かった。だからこのような子どもたちのつながりも、こんなものかと済ませていた。時には、グループ内外でもめごとはあるものの、その都度、解決し、問題は大きくならずには治まっていた。

卒業式も子どもたちは、涙、涙で私も子どもたちと共に感傷に浸っていた。だから、子どもたちの人間関係に問題意識を持っていなかった。逆に初めての担任が6年生で無事に卒業させたことで天狗になっていた部分もあった。

卒業後のある日、子どもたちとの思い出に浸りながら、卒業文集を読んでいた。この時、衝撃を受けることがあった。私のクラスの子どもたちは、組み立て体操の事や修学旅行、児童会祭りの事など、非日常的なことばかりを書いているのに対し、あるクラスの文集は、友だちの良いところ（クラス全員）、この一年間が自分にとっての宝物になった事や、このクラスがあったから自分が成長できた事など多種多様なことが書いてあった。この文集を読んで、天狗になつていた自分が恥ずかしくなった。このクラスには、ちよこちよこ授業を見せてい

ただいていた。その時も温かいクラスだなあと感じていた。しかしその時は自分のクラスと比べて考えていなかった。

この文集を読み、私の一年間を振り返ったとき、私の重視してきた子ども同士の人間関係作りは、とても浅いものであり、自己満足であった。私と子どもをつながり強くしていただけであつて、本当につながなければならぬ子ども同士の関係作りを重視していなかった。

その後、聞いた話であるが小学校では、一緒に野球やドッジボールをして遊んだ男子が、中学校進学後、不登校になったそうだ。小学校では、すぐく元気で明るかったのに。その子が不登校になった理由は聞いていないが、もし、もつと子ども同士の人間関係を深めることができていたなら、防げていたかもしれない。

あるクラスの担任は、二十年以上のベテランである。ゆえに、担任をはじめ持つ私と比べたら、授業のうまさ、子どもの見方、子どもの接し方など比べ物にならない差があるのは分かっているが、受け持つもらう子どもたちにとってはどちらも先生

なのである。子どもたちは、担任を選ぶことができない。であるならば、より多くの成長をさせてくれる担任に受け持つてもらう方が幸せなはずである。

次の年からその先生のようなクラスを作るためにどのようにすればよいか考えていきながら学級作りをしていった。その先生には、相談を聞いていただいたり、分からないことなどをずいぶんと教えていただいた。大変感謝している。その先生は、現在退職なさっているが、今もいろいろとご指導していただく機会があり、多くのことを学んでいる。

「もしあの時、こうしていたらよかったのに、ああしていたらよかったのに。」と言つても、時間は戻せない。だから、今が大切なのである。今の積み重ねが未来を作っていく。

現在、その当時の先生と同じような年齢になつているが、その先生のようなクラス作りができていいのか、と聞かれると疑問である。今も毎日が反省である。これからも出会いを大切に、失敗も繰り返しながら成長していきたいと思つている。